



## 千葉大学文学部公開講座

# 歴史の中の「境界」を問う

主催 千葉大学文学部  
後援 千葉市教育委員会  
企画 史学科

私たちの日常生活には、世界中のさまざまな歴史的な出来事や動きが複雑にかかわっています。また、大学ではさまざまな国からの留学生が学び、地域でも多くの外国人が働き、暮らしています。いつの時代にも、また思いがけない場所にも、異文化を抱えて移動してきた人々やその子孫が住んでいました。「あなたのお国はどこですか?」という問いは、現在の日本の文脈では出身国を尋ねるお決まりのフレーズです。しかし、国籍だけではどうも理解するすべもない、異なるルーツや歴史的 背景、文化的アイデンティティを持つ人が、共に暮らしているのがこの世界、そして日本ではないのでしょうか。国境という「境界」をこえて育まれた文化、人々の歴史がありました。

今回の講座では、「日本史」「世界史」の枠組みを離れ、また「一国史」の枠組みを問い直して、「境界」を生きた人々に出会い、その声に耳を傾けてみたいと思います。

日 時：2014年11月2日(日) 13:00~17:00

場 所：人文社会文化科学系総合研究棟2F マルチメディア会議室(別紙案内参照)

※当日は千葉大学祭を開催中のため、お車での入構は、できませんのでご了承願います。

講 師：史学科教員

対 象：高校生以上の一般市民の方

受講料：無料

申込み方法：事前に電話、FAX、E-mailなどで氏名をお知らせ願います。

なお、先着順に受け付けますが、空席状況によっては当日参加も受け付けます。

問合せ先：千葉大学文学部学務グループ

電 話：043(290)3631、2352

FAX：043(290)2356

E-mail：bhgakumu@office.chiba-u.jp

## ◆講義内容

### 趙景達：薩摩・異邦人村の歴史

秀吉の朝鮮出兵の際には、多くの朝鮮人が日本に連行された。ほとんどの虜囚は、帰国がかなわなかった。海外に売り飛ばされた者が多い。そうした者の中で、陶工たちは日本各地の陶磁器生産に従事し、一般には日本人に同化した。ところが、薩摩焼に従事した苗代川の人々だけは、朝鮮風俗や朝鮮語を明治になるまで残した。それは、薩摩藩の特異な統治政策でもあった。そして、薩摩焼は幕末に、折からのジャポニスムの流行に乗って世界に名を知られた。だが近代に入ると、苗代川の人々への差別が深まり、彼らは時代に翻弄される。戊辰戦争、西南戦争、日清・日露戦争にも多くの若者が従軍した。真珠湾攻撃の際の外相東郷茂徳もこの村の出身であった。この講演では、苗代川の人々の苦難の四〇〇年を振り返ることによって、日本の近世社会や近代の意味などについて考えてみたい。

### 池田 忍：「美術」の二重の境界 —アイヌ・アートから考える

近年、アイヌ文化の発信力は高まり、その受容や研究の状況は大きく変わりつつある。とりわけ、かねてより知られる木彫、刺繍、アットゥシ織といった工芸分野を中心に展覧会の機会が増えた。また「アイヌ・アート」という呼び名の下に、版画、イラスト、アニメーション、映像作品などを手がける表現者も現れている。この講演ではまず、アイヌの手仕事を、近世の蝦夷地の状況、とりわけ和人社会との関係性の下に置き紹介・検証する。次に、近代日本が導入した西洋の「美術」の制度からのアイヌの造形の排除、その後の「美」の概念の変化や拡大の過程における評価の変化について考える。併行して、アイヌの人々による自らの手仕事に対する意味付けと実践、「伝統」の継承と新たな創造の営みを、歴史的に存在した「美術」と「アイヌ民族」という二重の境界への主体的な関与、ひとつの「挑戦」の過程として読み解いてみたい。この試みはすなわち、「日本美術史」の枠組みの問い直しにつながる。

### 山田 賢：中国の「秘密結社」 —辛亥革命と「越境」する人々

1911年の辛亥革命前夜、孫文をはじめとする「革命派」知識人が海外に亡命しつつ活動していたことはよく知られている。そして一方ではまた、宮崎滔天ら日本人たちが、中国大陸に渡って革命運動に従事していたのである。つまり辛亥革命とは、一面から見れば、こうして「越境」する人々によって担われたわけである。そして彼らの「越境」する活動を支える基盤の一つとなったのが、「秘密結社」の広域的ネットワークであった。もともと「秘密結社」とは、故郷を離れて活動する移民たちが、相互扶助を目的として形成した組織であり、人の移動が容認されていた清朝統治下の中国では一般的な存在だった。これがいわゆる「華僑」と呼ばれる中国国外移民とともに「越境」するネットワークとして広がっていったのである。このようなタイプのネットワークに接した日本人がこれをどのように認識したのか、また、そもそもなぜ相互扶助のための組織が「秘密結社」という形態を取るのか、考えてみたい。

会場：人文社会科学系総合研究棟 2階 マルチメディア会議室

お車での入構はできませんので、公共交通機関をご利用ください。

